

半田更生保護サポートセンターだより

情報発信を通じて更生保護の諸活動に対して地域の理解や協力が十分に得られるように努めます。

vol.02 2019.06



みんなで力を合わせて、 様々な啓発活動を行っています

強調月間は毎年7月1日～31日までの1か月間

「社会を明るくする運動」半田市での活動

のぼり旗、横断幕の設置

のぼり旗や横断幕、懸垂幕を、市内各所に掲げます。また、ポスターを配布、掲示をお願いしています。



幼稚園・保育園訪問

園児や保護者の方に、リーフレットを配布したり、犯罪予防の話をしています。



標語コンテスト

市内中学生を対象に標語を募集しています。

最優秀作品

「声かけが つながり 育む 第一歩」平成30年度

「よく考えて 家族の笑顔と 自分の未来」平成29年度



本年5月1日に新元号となり新たな時代を迎えました。平成の30年間は少子高齢化による人口減少や経済不安、また東日本大震災など災害の多い時代でもありました。

更生保護に関しては、平成29年12月に国の再犯防止推進計画が策定され、今後、行政による再犯防止の取り組みが本格化されていく中で、更生保護関係者の皆さまをはじめとする地域の協力はこれまでに以上が必要不可欠ものとなります。本年も7月に開催される「第69回社会を明るくする運動」の強調月間では、それぞれの立場において関係者の皆さまと力を合わせ、安全・安心な地域社会づくりを推し進めてまいります。今後ともより一層のご協力をお願い申し上げます。



半田市長
榊原 純夫



大正中期の救済所。右の建物は武道場。左奥は宿舎。十棟ほどの建物があつた。武道場は入所者の鍛錬の場だが、「半田警察署」の剣道場も兼ねていた。



道端や橋の下に人が捨てられているのが日常の時代だった。救済所は、捨て子や老病者を多く収容。ここで成人まで育った孤児たちも数えきれない。

● 榊原弱者救済所跡公園
(鴉根史跡公園)

半田市鴉根町に明治32(1899)年から30年間犯罪歴のある人や孤児、障がい者ら1万5千人を受け入れた国内最大規模の更生保護施設があつた(西まさる著「幸せの風を求めて」)。若い頃は暴れん坊で侠客の道に入ったこともある榊原電三郎。11歳の時ひとりの乞食が非常に困難しているのを見て助けさせてもらい、その者が大いに喜んだのを見たのが動機となり、「榊原弱者救済所」をつくりました。なお、大正6(1917)年3月31日発行の愛知県内務部編纂の「内務省主催感化救済事業地方講習会講演集」には榊原救済事業主として榊原電三郎が「事業の動機と現状」と題した事例発表をしています。

平成25(2013)年9月23日「榊原弱者救済所跡公園」が整備され、名古屋地方検察庁の検事正、中部地方更生保護委員会の委員長、歴代名古屋保護観察所長等高官が視察。平成29(2017)年1月25日には法務省保護局長畝本直美氏も視察に来訪されています。

現在は、当時の広大な敷地の一部に、鴉根史跡公園を設置。救済所の歴史を写真入りで解説、展示しています。掲示板は8基あり、公園に見やすく設置してあります。

